

モーターファンオートスポーツ NO.30

毎月1回1日発行 昭和43年1月1日発行 第5巻第1号 昭和41年
4月第3種郵便物認可 昭和41年3月1日 国鉄東局特別積込承認証2503

AUTO SPORT 1

1968

《特別グラフ》68年に賭ける国内ビッグ・チームの精鋭

《新連載》国際レース界の舞台裏——フランス人記者の特別寄稿

《レース速報》火炎にいろどられた富士12時間——12月3日

《カラー・ハイライト》67年CAN-AMシリーズ



特別付録

デラックス・ポートレート
世界グランプリを走るスター・ドライバーたち



全長1.2km、大小5つのカーブを切り抜けていっきに加速するとフィニッシュ地点となる。

ダイナミックなヒルクライム

キング・オブ・ザ・マウンテン

11月19日 伊豆ハイスピード・クライム・コース



日本オート・クラブ(NAC)とシーサイド・スポーツ・アソシエーション(SSSA)によるヒルクライム〈キング・オブ・ザ・マウンテン〉は、さる11月19日NAC所有の伊豆ハイスピード・クライム・コースでおこなわれた。

コースは全長1.2 kmのダート・コースで、のぼり坂やくだり坂が多く、それにジャンピング・スポットまである過酷なものだ。

参加台数は32台。このなかにはダート・コースにあわせてスノー・タイヤを装着していた車もかなりあった。また、カブト虫スタイルのフォルクスワーゲン1300も参加しており、国産車に混じってどこまで戦うか注目された。このほか、スバル360をベースとした2座席レーサー“ゴビー”も特別参加して、競技に色どりをそえた。

競技方法はトライアルを2回おこない、そのなかでベスト・タイムを出した選手——つまり、総合優勝をとげた選手がキング・オブ・ザ・マウンテン賞を獲得する。

クラス分けは5クラスでツーリングカー部門 A(1300cc以下) B(1301cc以上)。スポーツカー部門 C(1300cc以下)、D(1301cc以上)、このほかNACとSSSA 会員だけ参加できるクローズドのFクラスとなっている。

午前10時30分、第1回トライアルのスタート。32台がつつぎと砂塵をまきあげながら第1コーナーめざしてのぼる。コーナーではドリフトとカウンター・ステアをもちいたダイナミックな走法がイベントの雰囲気盛りあげていた。第1回トライアルの結

ジャンピング・スポットをのり越えるAクラス
1位の真田勝彦(コンテッサ・クーペ)。

果はブルーバードSSSで出場した長谷川弘信選手が1分16秒(約56.8km/h)のタイムで第1位。しかし、第2回トライアルが残っているので油断はできない。

第2回トライアルは、第1回にくらべ各選手ともコースに馴れたせいかスムーズにコーナーを抜ける。第2回トライアルは真田睦明選手(ブルーバードSSS)が1分16秒を出し、長谷川選手が第1回トライアルに出したタイムと同タイムで第1位。いっぽう長谷川選手は第2回トライアルをスタートしたが、フィニッシュまで3分以上かかり失格となった。

こうして、最高タイムは真田選手と長谷川選手が同タイムで獲得してしまったが、“同タイムのばあいには、もういっぽうのトライアルのタイムがいいほうが上位となる”というレギュレーションにもとずいて、真田選手が総合優勝し、キング・オブ・ザ・マウンテン賞をものにした。

各クラス順位はつぎのとおり。

＜Aクラス＞	第1回	第2回
1位 真田勝彦(コンテッサ・クーペ)	1分18秒	1分17秒
2位 阪田政敏(コンテッサ・クーペ)	1分21秒	1分17秒
3位 筒井義寛(フォルクス・ワーゲン)	1分22秒	1分20秒
＜Bクラス＞		
1位 真田睦明(ブルーバードSSS)	1分22秒	1分16秒
2位 長谷川弘信(ブルーバードSSS)	1分16秒	
3位 川島 和(ベレット1600GT)	1分23秒	1分17秒
＜Cクラス＞		
1位 栗原良行(トヨタS 800)	1分27秒	1分20秒
2位 益子義一(ブルーバードSS)	1分24秒	1分21秒
＜Dクラス＞		
1位 黒井 明(フェアレディ1500)	1分28秒	1分24秒
2位 佐藤俊一(フェアレディ1500)	1分26秒	1分36秒
＜Fクラス＞		
1位 佐藤義明(ブルーバード)	1分19秒	1分18秒
2位 沢田 稔(カローラ)	1分20秒	1分19秒
3位 佐々木実(ベレット1500)	1分23秒	1分19秒

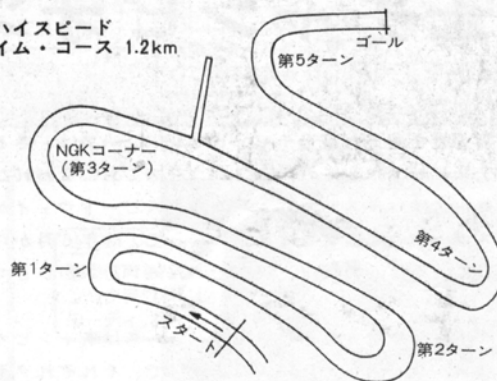


コースはダートなうえこのようなジャンピング・スポットも盛り込まれているFクラス2位沢田稔のカローラ。



スバル 360をグループ7に改造した奥本普也のゴビー。タイムはかんばしくなかった。

伊豆ハイスピード
クライム・コース 1.2km



1分16秒のベスト・タイムでキング・オブ・ザ・マウンテン賞を手中におさめた真田睦明(ブルーバードSSS)。競技終了後の表彰式で総合優勝した同選手にスポンサーから大トロフィーが贈られた。

この3月、日本の街にデビューしたホンダN360。フィアット500や、シトロエン2CVなどがもっている、あのエスプリのあるイキな車を手近に迎えたのです。エンジンは小粒だが、性能は、これら欧州の先輩以上。もちろん装備も豪華。今年5月くらい6ヵ月連続<軽乗用>のトップセラー。

知る人ぞ知る車の真価が、広く仲間に呼応したからです。N360自身にも仲間がふえました。高性能<軽>ライトバンLN360に加えて、<軽>で最も広い荷台をもつ平床三方開トラックTN360。いずれもホンダならではの独自の機構がいっぱい。期待を裏切らない高性能車です。

イキな仲間がふえました



ホンダ N360

354cc・4サイクル空冷2気筒OHCエンジン
最大出力31馬力・最高速度115km/h・0→
400m加速22秒・登坂力20度・燃費28km/ℓ

¥313,000 工場渡し現金価格/埼玉県狭山
ヒーター・ウインドワッシャー・バックライト・サイドマーカーランプ・前後席シートベルトアンカー
などデラックス装備が標準仕様。スベアタイヤ・工具一式付●オーローンの取扱いもいたします。



最も広い荷台の平床式三方開 軽トラック

新発売

ホンダ TN360

¥293,000 工場渡し現金価格/埼玉県狭山



N360をベースにした高性能 軽 ライトバン

ホンダ LN360

後部ドア横開き
¥308,000 工場渡し現金価格/埼玉県狭山



HONDA
本田技研工業株式会社